

平成28年度 第1回 八雲町熊石国民健康保険病院運営委員会会議録（要旨）

- 開催日時 平成28年8月22日 午後4時～5時
- 開催場所 八雲町熊石国保病院 2階会議室
- 出席委員 島谷喜人委員、平井稲子委員、宮田千秋委員、澤谷省造委員、干場敬亮委員
(欠席：桂川裕樹委員)

- 町側出席者 植杉副町長、桂川事務長、福原次長

ただ今から平成28年度熊石国保病院運営委員会を開催します。

国保病院の運営委員会は、八雲町自治基本条例に基づきまして、広報やくもや町のホームページで開催日を町民に周知しています。

初めに植杉副町長からご挨拶申し上げます。

(副町長挨拶)

日頃より国保病院の運営についてはいろいろなことで、ご協力をいただき、心から厚くお礼申し上げます。

病院については、先生2人で診療を行ってきておりまして、ここにきて熊石地域はもちろんですけど近隣の地域からも信頼される診療機関として患者数も順調に推移しているようで、経営も安定しています。

一方では、看護師が不足し、なかなか来てくれないという状態が続いていましたが、看護師住宅を整備したり、看護師手当という新たな手当を新設したりして事務局も努力をしてくれておりまして、お陰様で今ではほぼ必要数を確保できている状況であります。

平成26年度に会計基準が大幅に変更になり経営は厳しい方向にありますけれども、病院の先生をはじめ、みんなが一丸となって住民の皆さんの健康を守るために努力していきたいと考えてますので今後ともよろしくお願いします。

今日は決算等について皆さんのご意見等を伺うということになっていきますので、どうぞ忌憚のない意見等を賜りたいと思いますのでよろしくお願いします。

(事務長)

それでは会議次第によって委員会を進めて参ります。

(事務長)

続いて決算の概要について説明します。

まず資料1の過去5か年の決算状況をご覧ください。

常勤医師2名体制が3年目となり経営は安定して推移しました。

患者数は前年と比較して入院で 8.8% 1,687 人増、外来で 2.3% 401 人減 合計で 3.5% 1,286 人増加しました。

収益では入院患者数の増により、上から 6 段目右端小計欄の収益合計で前年に比較して 41,260 千円増加しました。

費用は、新会計制度移行に伴う退職手当引当金や賞与引当金などがなくなったため、31,683 千円減少しました。

その結果、差し引き収支で 22,627 千円の純利益となりました。

下から 2 段目の留保資金は前年度と比較して 67,576 千円増加し、386,825 千円増となりました。

職員の状況を説明します。

4 月 1 日現在の職員体制は

医師 2 名、看護師 21 名、看護補助及び助手 10 名、薬局 2 名、放射線 2 名、臨床検査 2 名、物療 1 名、事務 7 名、給食 1 名、公務補 2 名 の計 50 名となっています。

昨年 4 月と比較しますと 1 名減となっています。

決算の詳細については福原次長から説明いたします。

(次長)

(1) 平成 27 年度決算について別紙のとおり説明

■ 質 疑

(委員 H) 収入が増えた要因は入院患者が増えたからか。

(事務長) 外来患者は減少しているが入院患者が増加しています。1 1 月ころから入院患者が増加しています。

高齢者が多く、体調をくずし外来を受診するが、介護する家族がないので自宅での生活が困難と判断され、そのまま入院となるケース多くなっています。

また、ロコミなどで、近隣の乙部町、せたな町からの入院患者も増加しています。それに伴って診療収入が増加しました。

(委員 M) 短期入院はよいが長期入院はだめなのか。

(事務長) 制約がいろいろありまして在院日数が 60 日を超えると 15 対 1 の入院基本料がとれなくなります。

とにかく回転を速くしないといけない。そうしないとペナルティがあります。

(委員 M) 我々としては独居老人が多いので病院で引き受けてくれれば非常に助かるが、長くは入院できない。1 回退院させなければならぬのか。

(事務長) 長期入院の方は 1 年を超える方もいます。

(委員 M) 老人ホームがまだ対応できないからね。

(事務長) やはり一番ネックになっているのは受け入れ先がないということです。

- (副町長) 町外からの入院患者は何人くらいいるのか。
- (事務長) 以前ですと1人か2人でしたが今は5, 6人います。
- (副町長) 外来患者も町外の人が増加しているのか
- (事務長) 外来患者も町外からの人が増加しています。
- (委員H) 町外で仕事をしていると、熊石の病院はいいよねと言われる。
- (委員長) 具体的にどこが良いのか
- (委員H) 先生の対応がよいと言われる。国保病院を利用してくださいと営業している。
- (委員長) 入院して2ヶ月超えたら老人ホームにもどるのか。
- (事務長) 老人ホームの入所者は3ヶ月以上入院すると退所という形になります。
- (委員M) 前年度からみるとマイナスからプラスに転換している。8千万円ほど改善しているということですね
- (事務長) そうです。新会計制度に移行しまして経費の負担が大きくなっている。従来からみると黒字にするのはより困難になっています。
- (委員長) そうすると地方交付税は増加しているのか。
- (事務長) 地方交付税は変わっていません。少しずつ減らす傾向にあります。
- (委員S) 留保資金が67,000千円増加している。その内訳をみると未収金が51,000千円増加している。未収金の中身で固定化しているものはどれくらいあるのか
- (事務長) これにつきましては診療報酬の分であります。診療報酬は2ヶ月遅れで入金されるので、3月31日時点では未収金に計上されます。
- (委員S) そうすると前年度より増加したのは患者数などの増加により収益が増えたということか。
- (事務長) そのとおりです。
- (委員長) 平成27年度決算はこれで良いですか、質疑がなければ28年度予算に入ります。
- (委員) 異議なし

平成28年度予算について福原次長から別紙のとおり説明。

- (委員S) 予算をたてるときは赤字予算が組まれないからこのようになっていると思うが、実際の中身はどうか、どれくらいの赤字になると見込んでいるのか。
- (事務長) 医師2名体制になってから診療収入が増加しており、平成27年度も黒字決算となっています。28年度予算においても収益が見込めることから収支均衡予算としています。
- (委員長) 予算をたてた以上はこれに見合うような努力をしてほしい。
- (委員M) 一般会計からの繰入金金は48,000千円ではずいぶん少ないのではないか
- (事務長) これは基準外の繰入金金の額であります。最近では50,000千円前後で推移しています。

(委員長) 車両はどの車を購入するのか

(次長) 医師の送迎用の車両です。15年経過し、15万キロほど走行しているので更新するものです。

(委員長) 自分も患者として受診しているが、内科、外科の先生の対応が良くていつも廊下には患者が大勢いる。そういう姿勢がこのような黒字決算になったと思われる。

(委員長) 人がいないのに診察券をイスの上に置いてあるという話を聞いたことがある。

(事務長) 私は朝6時ころ病院に出勤することがありますが、診察券をイスの上において後ろの方で雑談をしている方もいます。私が見る限りではほとんどの方は診察券をイスの上においても、本人は近くにいます。

(委員長) 病院は何時に玄関を開けるのか。

(事務長) 朝5時に開けています。

(副町長) 私も3ヶ月に1回は受診している。7時20分ころ来て前から3列目あたりに座っている。席にいない人は、後ろの方で雑談をしていたり、病棟のほうへ行っている人の方である。ほとんどの人が席に座っている。

(委員H) 以前はそのようなこともあったと聞いているが最近はそのようなことはない。患者さんは早くきている。

(委員長) 朝早く受付しても昼すぎまでかかることもあるようだが、病院としては患者が多くて経営的には良いことだと思うが少しでも待ち時間を改善できないか。

(事務長) オーダリングシステムを導入して相当改善されています。診察のスピード、検査の開始時間、先生が早く来て指示を出していますから、職員が出勤してくるとパソコンに既に指示がでているので速やかに実施しています。

受付についてもオーダリングシステムに入力しているので、外科、内科両方受診する場合も順番を間違えることもなく、スムーズに流れています。

混んでいる場合は診察開始時間を早くしています。

(委員H) 先生方も努力し、休憩なしで診察している。

時間がかかるというわりには、自分の番になると長々と先生に話をしている。

患者さんは自分勝手なところがある。

(委員長) 全体的には待っている時間が長いですが、診察を受けるとしっかり説明してくれるのでわかりやすい。

(委員H) 先生方は大変評判が良いので、これからもよろしくお願ひしたい。

(委員S) 決算などは総合病院と一緒に作成されるのか。

(事務長) 決算は別々に作成している。

(委員長) これで質疑を終了してよいですか。

(委員) 異議なし

(委員長) これから病院内の医療機器を視察します。

オーダーリングシステム、X線CT装置、上部下部内視鏡システム、生化学自動装置分析、医療画像ファイリングシステム等を視察して終了。